

RKU Today

流通経済大学広報誌

SUMMER 2011

vol.16

【特集】

まちを元気にする龍・流連携事業

—龍ヶ崎市+流通経済大学—



流通経済大学

04

【特集】

まちを元気にする龍・流連携事業

—龍ヶ崎市+流通経済大学—

文：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

10

【学長室だより】

災害と危機管理

小池田富男（流通経済大学長）

12

【連載】ポルトガル語の「窓」から 第3回

イッキ飲みの〈悪習〉はいつ始まった？

日笠博司（流通情報学部教授）

14

Close Up!

流通経済大学 [教職員紹介]

16

【特別寄稿】

東日本大震災と物流、ロジスティクス

文：矢野裕児（流通情報学部教授）

18

【OB/OG 訪問】立川が聞く。

坂入浩行さん（第15期生・坂入社会保険労務士事務所所長）

取材：立川和美（社会学部准教授）

20

2011 年度後援会総会 報告

22

NEWS & TOPICS



震災後、ボランティア活動をするラグビーフットボール部の学生

巻頭言



今回の震災で

諸君はどのような教訓を得ただろう。

大惨事に遭遇した我々に、

もしも利点があるとするなら、

内省、そのことに他ならない。

大惨事に利点など、ない。あるはずがない。

だが、敢えて探すなら、内省、これだ。

内省とは、大惨事から何を教訓とするか、

何を学び取るかを、自らに問いかけること。

その一点にこそ、大惨事唯一の利点がある。

我々は、大惨事を乗り越え生き続けねばならない。

それが、生き残った人間の使命だ。

そこに、将来へと繋がる教訓を学び取る。

そう、教訓を得ること、それこそが、

大災害のもたらした唯一の利点であることに、

諸君は気づく必要がある。



小学校で実施した親子ふれあい教室の様子



親子ふれあい教室にて、授業で学んだことを活かし丁寧に説明する様子

約六五〇の大学、そして約五五〇の短期大学、合計すると約一二〇〇もの大学・短期大学が、全国各地に存在する。現代社会における大学には、高度職業人を養成することと同時に、各領域の研究成果を広く社会に還元するという使命がある。

九〇年代後半以降、バブル経済が崩壊後、社会状況は一変し、様々な分野で新たな問題が発生するようになってきた。このような状況の中、企業、行政、大学といった機関は、当然のことながらそれ

ぞれの立場だけでは解決することが難しい問題に直面することも多く、産（産業、企業）、学（学校・研究所）、官（行政）がお互いに連携を図るようになり、地域社会のみならず、広く社会に貢献していく活動が活発化してきた。

流通経済大学と龍ヶ崎市においても例外ではなく、大学の持っている知的財産を広く龍ヶ崎市のネットワークを生かして公開するプログラムが、二〇〇四年から実施されている。その名も龍・流連携事業である。

今回の特集は、この龍ヶ崎市と流通経済大学との連携事業について紹介していく。

学生たちが中心となって身体を動かすことの楽しさを小学生に伝えます



健康づくり教室では、楽しみながら続けられる運動メニューで健康維持を目指します

龍・流連携事業のはじまり

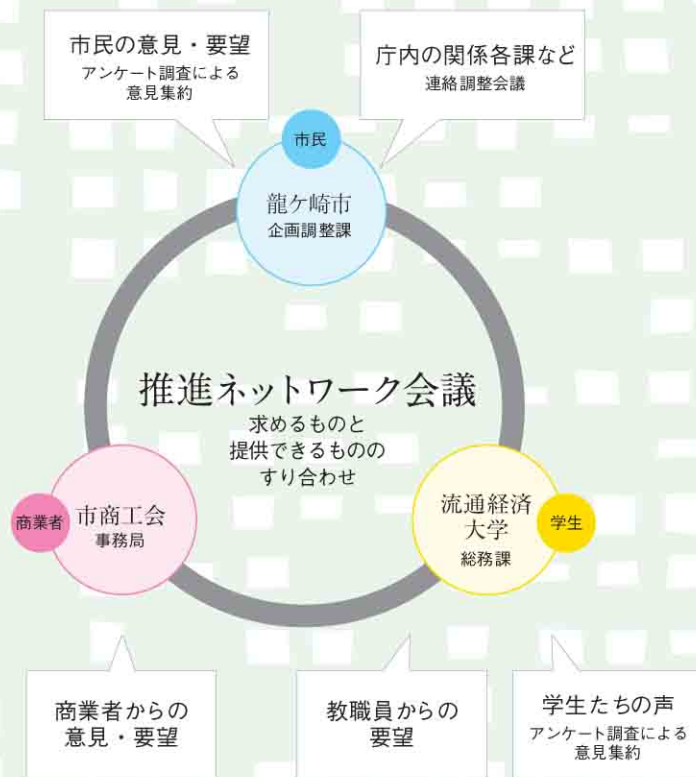
龍・流連携は、龍ヶ崎市の「龍」と流通経済大学の「流」から由来する通り、市と大学との連携事業である。その歴史は二〇〇四年にさかのぼる。

バブル経済崩壊後、我が国は経済活動の停滞、少子高齢化社会の到来、環境問題等の課題が山積しており、それは、地方自治体においても同様であった。また、首都圏に集中する経済活動の活性化により、その近郊の地方自治体は生活都市へと変化し、多くの住民が移り住むようになり、これに伴って、地域住民とのコミュニ

ニティの形成が、大きな課題となってきた。これらの問題解決が急務とされるなかで、龍ヶ崎市のネットワーク、流通経済大学の知的財産を活用し、教育文化の向上、スポーツの振興、地域産業の活性化、ひとつづくり、まちづくりといった内容をキーワードに、地方自治体が抱える諸問題を解決する目的で龍・流連携がスタートしたのである。

龍・流連携は、まさに市と大学がひとつになって「まち」を元気にする事業である。

龍・流連携事業推進のための組織



【特集】まちを元気にする

龍・流連携事業



バブル経済崩壊後、社会構造は大きく変化し、地域社会は、大きな閉塞感に包まれている。このような状況の中、地域はその地域にある資源・財産を活用し、「まち」の再生を図っている。龍ヶ崎市と流通経済大学の間で結ばれた、「龍・流連携事業」を特集し、まちを元気にする試みを紹介する。

文：田畑 亨（スポーツ健康科学部講師）

市民のげんきのみなもと

近年、高齢化の進展や生活習慣病患者の増加に起因する医療費の増大によって、わが国の国家財政は大きく逼迫することとなっている。この様な状況の中で、私たち国民の、生涯にわたって健康を維持するといった意識が高まってきているといえる。国においても「スポーツ振興基本計画（文部科学省）」や「健康日本21（厚生労働省）」（いずれも二〇〇〇年に制定）といった政策において、スポーツ活動を通して生涯にわたって健康な身体を維持していく生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みを行っている。このように、健康づくりに対して興味関心が高まるなか、龍・流連携事業においてもスポーツを通して健康づくりを推進する講座が多く開講されている。

その中でも特に人気の高い講座は、スポーツ健康科学部の小粥准教授が担当する「男の貯筋（ちよきん）講座」である。人気の理由は、手軽に筋力トレーニングが行えることにある。筋力トレーニングは、その実施方法について専門的知識がないと難しいというイメージが強い中、小粥先生が指導するトレーニングは、手軽に実施でき、また特別な器具を使用せず、自宅にある身近なものから、無理なくできるように考えられている。参加者の多くは、継続的に筋力トレーニング



男の貯筋講座の様子。無理なくできるこの講座は年配の方にも人気です



毎年夏に実施する、市内の幼稚園、小・中学校の先生方を対象とする救急救命研修会



を行い、まさにたくさん貯筋（ちよきん）を行っているのである。

龍・流連携事業では、このほかに、エアロビクス講座やウォーキング講座、少年少女陸上教室、ラグビー教室など、多くのスポーツ講座を開講し、市民の健康維持・増進の一助となっている。

※1 スポーツ振興基本計画
2000年に文部大臣告示として策定された、2001年度から2010年度までの10年計画。一層のスポーツ振興によって明るく豊かで活力のある社会を実現することをねらいとする。

※2 21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）
2000年に当時の厚生省によって始められた第三次国民健康づくり運動。生活習慣病の予防を目的とし、食生活、運動、心の健康づくりなど9分野について目標を設定し、対策を行う。

知的好奇心をかき立てる文化講座

人生八〇年の時代の到来に伴って、よりよい生活を目指す、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）生活の質の考えが広まるようになってきた。QOLとは、仕事によって得られたお金によって豊かな生活を送るといった意味合いよりも、健康を維持し、また知的好奇心を高め、教養あふれる人生を送るといった考えである。

龍・流連携事業は、英会話や源氏物語を楽しむといった文化講座も充実している。特に人気の講座は、法学部の和田教授の「源氏物語を楽しむ会」である。この講座は最初短期プログラムとして開講した。しかし、和田先生の講座終了後も、受講生は自らグループを作り、源氏物語について勉強会を開催し、その勉強の成果を本学の学園祭などを通じて、発表を行っているほどである。まさに、ライフワークの一環になった講座であるといえる。



源氏物語を楽しむ会で講演する和田先生。公開講座を含め、これまで120回以上開催されています

その他にも、社会学部の岡野ロビン教授が担当している「英会話講座（英語で学ぶ国際マナー）」も人気のある講座の一つである。岡野先生は、NHKで英会話講座を長きにわたって行っていた実績もあり、分かりやすさには定評がある。

龍・流連携で実施している文化講座は、参加者の知的好奇心をかき立て、講座終了後も生涯学習の一環として取り組まれている方が多いといえる。

これまでに実施された主な龍・流連携事業		
【名称】	【講師】	【概要】
みんなで考えよう「防犯につよいまちを目指して」	大橋純一教授	防犯について学び、地域で行う防犯活動に活かす
ワードで描くパソコン画「紫陽花を描きましょう」	今西真理子さん	パソコンソフト「ワード」を使って絵手紙を作成
ビギナーのための英会話教室「英語で学ぶ国際マナー」	岡野ロビン教授	アメリカの最新事情などを伝えながら楽しく国際マナーを学ぶ
中級者のための英会話講座「英語で学ぶ国際マナー」	岡野ロビン教授	ネイティブ講師による英会話講座
スポーツ健康教室「体験ヨガ」	水野谷香さん	ヨガを通して、健康的な生活を送ることを目指す
健康づくり教室（運動不足解消コース）	坂本充准教授	健康づくりのためのボール運動、リズム体操など
健康づくり教室（卓球コース）	久川太郎教授 坂本充准教授	健康づくりのための卓球を中心とした運動
健康ウォーキング講座	田賀健太郎准教授	市内コースをウォーキング
筋力アップ講座	小粥智浩准教授	トレーニングを通して、健康なからだづくりを目指す
男の貯筋講座	小粥智浩准教授	歩行機能やバランス能力など、運動機能の向上を目指す
親子ふれあい標本作り教室	山本道也教授	蝶の標本作りを通して、親子のふれあいを育む
救急救命研修会	小峯力教授 稲垣裕美講師	救急救命と生命倫理に関する講演と研修
日中茶文化交流	和田律子教授 古田朱美教授	日中のお茶の歴史と文化を、試飲しながら学ぶ
ことばにみる日中文化比較	古田朱美教授	講座を通して、異文化理解を深める
健康維持増進のためのテニス講座	大槻毅准教授 久保貴敬講師	テニスを通して、心身のバランスを整える
■ボランティア学生小中学校派遣事業 (対象学校) 龍ヶ崎小学校・長戸小学校・川原代小学校・大宮小学校・龍ヶ崎西小学校・松葉小学校・八原小学校・久保台小学校・城ノ内小学校・長山小学校・馴染小学校・城ノ内中学校・中根台中学校 他 (内容) 生活指導支援（中間休み・給食・掃除の時間を通して、あいさつなどの基本的な生活習慣の指導を行う） 学習支援（教師の補助として、学習情報の確認、学習指導の手伝いを行う） スポット支援（総合的な学習の時間などで、スポーツ的な支援を行う） 部活動支援（部活動顧問の補助や専門的な技術の指導を行う）		
■龍・流カッパ 市内6中学校によるサッカー大会（流通経済大学サッカー部の学生による指導や交流をはかる）		

※この他にも様々な事業が実施されています。



市内をウォーキングしながら、昔の龍ヶ崎について教えてもらいます



健康増進のためのテニス講座。初心者でも楽しんで参加できます

学生を育てる 龍・流連携事業

流通経済大学は建学の理念の一つに「実学主義」を掲げている。「実学主義」とは、学生が大学の様々な授業を通して学んだ理論や知識といったものを社会の場ですぐに実践できる能力を身につけることで、龍・流連携事業は、その知識を活かす場でもある。

様々な講座には、担当講師をサポートする立場で流通経済大学の学生が補助にあたっている。ウォーキング講座においては、準備運動や不測の事態に対応するための救護係を担当しているが、ウォーキング中は、参加者の「おじちゃん、おばちゃん」から「昔の龍ヶ崎はこうだったんだよ」など会話を通して、龍ヶ崎の歴史や風土を教えるというなど、可愛がってもらっている。学生にとっては龍ヶ崎に愛着をもつきっかけにもなっている。もちろん、指導する機会も与えられ、多くの失敗を重ねて様々なことを経験し、龍ヶ崎の地で成長し社会に羽ばたいていくのである。

また、小・中学生に対して大学生が大学生生活について体験談などを話すという企画も好評である。小学生は、身近に見る大学生の話を真剣に聴き、自分自身の将来像を思い描いている。

一方、龍・流連携事業では、学生のためのユニークな特典も用意されている。

学生が所持する学生証を提示することによって、市内の龍・流連携登録店において、割引料金でその店を利用できる。加盟店は、学生の活力の源である飲食店はもちろんクリーニング店やガソリンスタンドまで多彩である。

このように、学生は大学で学んだことを、龍ヶ崎市というフィールドでその成果を発揮することができ、また、市民の方々も暖かく学生を受け入れてくれる。龍ヶ崎市というフィールドは、学生の教育の場としてももちろん、生活基盤として、まち全体で流通経済大学の学生を育てているのである。

二〇〇四年以降、龍・流連携事業がスタートしてから七年の歳月が流れてきた。この間、様々な連携事業が展開されてきた。元来、大学は閉鎖的なイメージが先行し、市民が足を踏み入れづらい場所とされてきた。しかしながら龍・流連携を契機に、市民の方々がたくさん大学内に足を運ぶようになり、大学の雰囲気も大きく様変わりした。また、大学の教職員、学生においても、市民の中に入り込むことで市民とコミュニケーションを図る機会ができ、新たなネットワークが誕生したのである。

龍・流連携事業は、市民・学生・教員が互いに協力し合い、「活気あふれる元気なまち龍ヶ崎」を創造していくであろう。



「源氏物語を楽しむ会」
発足5周年記念パーティーの様子



日中茶文化交流の様子。日本茶と中国茶を飲み比べ

龍ヶ崎市が設定した健康増進のためのウォーキングコース。スタート前の記念撮影です



龍ヶ崎市と流通経済大学との 連携に関する協定書

龍ヶ崎市と流通経済大学は、相互の知的・人的・物的資源の交流・連携を図り、まちの活性化と大学教育の向上に寄与するため、次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、「龍・流協定」と称し、龍ヶ崎市（以下「市」という。）と流通経済大学（以下「大学」という。）が相互の価値を高めるため、教育、文化、スポーツ、産業、人づくり・まちづくり等の分野において連携し、まちの活性化と大学教育の向上を図り、共存共栄することを目的とする。

(連携事項)

第2条 市と大学は、次の事項について連携する。

- (1) 教育及び文化の向上に関すること。
- (2) スポーツの振興に関すること。
- (3) 産業振興に関すること。
- (4) 人づくり・まちづくりに関すること。
- (5) その他市と大学が協議のうえ、必要と認めること。

(効力)

第3条 本協定は、協定締結の日から効力を生じるものとし、市と大学のいずれかからの改廃の申入れによる合意がない限り効力を失わないものとする。

(その他)

第4条 本協定に定めのない事項及び本協定に関し疑義が生じたときは、その都度市と大学が協議して定めるものとする。

この協定を証するため、本協定書2通を作成し、署名のうえ、各1通を保有する。

龍・流連携締結の様子。(左) 串田前市長（龍ヶ崎市）と(右) 野尻前学長（流通経済大学）



2004年2月2日
龍ヶ崎市市長 串田武久
流通経済大学学長 野尻俊明



本学の学生を対象とした割引サービスを実施しています。飲食店や、クリーニング店、ガソリンスタンドなど57店舗（2011年6月28日現在）のお店に協力いただいています



岡野先生が担当している英会話講座。リピーターが多数います



百人一首大会。老若男女分けてなく楽しめるのも文化講座の魅力の一つです



【学長室だより】

Vol.09

災害と危機管理

学長 小池田富男

社会学の分野では、ウルリヒ・ベッグやA・ギデンスなどによって、現代社会は「リスク社会」として捉えられ、また経営学の分野においても、企業活動での「危機管理」はマネジメントにおける重要課題になっている。それを受けて「危機管理」は、大学教育における教科の一つにもなり、危機管理を専門とする新しい学部さえ設置されるようになった。

今回の大震災のような二〇〇〇年に一度の未曾有の大災害は誰も想定しなかったであろうが、しかし大震災と巨大津波、そして福島第一原子力発電所の爆発事故直後の、政府や地方自治体、東京電力、原子力安全委員

会等の、そして関わりをもった「学識経験者」たちの対応を見てみると、あらためて危機管理を研究し教育することの必要性和いったん危機的事態が発生した際のトップ・マネジメントの在り方について、深く考えさせられることが多かった。「想定外の事態」になすすべもなく思考を停止し、沈黙してしまった社会的地位にある人々と、危機的状況下で何をなすべきかを判断し、命を賭して最善の努力をした災害現場の人たちとの差異が、あまりにも歴然としていたからである。

「危機管理」の語源はドイツ語の *Risikopolitik* であり、第一次世界大戦の後、敗戦国ドイ

ツが莫大な賠償金の支払いを迫られた際に使用された言葉であるが、一九二九年のアメリカ大恐慌後に、保険業界で *risikomanagement* が経済用語として使われだしてから今日に至っている。想定される危険や損害を最小の費用で効果的に処理するための経営手法の一つとして、きわめて一般的に理解され用いられるようになった。その限りで「リスク・マネジメント」は、何か特別の事態への対応ということではなく、日常の企業活動に内在するリスク因子を評価し、発生頻度や顕在化に伴う被害を最小化するための、通常の経営活動そのものといつてよい。もちろんそれ以外にも、国家安全保障上の中心課題として、偶発的な武力衝突が拡大して大規模な戦争に突入するのを戦略的に抑制し、回避する方策としても取り扱われている。また、日本語ではともに「危機管理」と表現されるが、危機的な事態に陥るのを回避するための事前の「リスク・マネジメント」と、ひとたび危機的事態が発生した場合



震災から約50日後の大船渡市にて (撮影: 岡 真人)

の緊急の対処方法に関わる「クライシス・マネジメント」とは、区別されなければならない。特に今回の原発事故では、クライシス・マネジメントにおいて、政策担当者や有識者たちの「知」と「倫理的・政治的意思決定力」との「断絶」が曝き出されてしまった感がある。

そもそも、「リスク」という言葉は、近代になって登場した用語であり、大澤真幸氏によれば、語源はイタリア語の *risicare*、すなわち「勇気をもって試みる」という言葉から来ているということだそうである。すなわちリスクは、人間の何らかの「意思決定」や「選択」に伴って発生が想定される「不確実な損害」のことであり、不断の技術革新や社会システム及び人間の社会

活動の変革がいわば常態化するようになった「近代社会」に固有の現象ということになるというのである。その意味では、確かに巨大地震やそれに伴って発生する巨大津波そのものは、自然災害としての *danger* であって *disaster* ではない。しかし、この極めて小さい確率で起きる甚大な規模の *disaster* に対して、どの程度まで準備するかを決定することもまた、コストを伴う「リスク管理」ということになる。ただ、今回のような大震災や、その影響があまりにも大きすぎる原子力災害のような場合には、「費用対効果」を勘案して行われる通常の企業活動でのリスク・マネジメントとは次元を異にした対応をしなければならぬ。一般的にリスクの大きさは、

「発生の確率×予想される損失の大きさ」で表わされるが、それに基づいて企業等は、いつかはリスクが顕在化することを前提に、「最適なコスト」を計算して対応することになる。しかし今回の大震災や原発事故のような災害の場合、その損失金額は天文学的数字になり、かつ取り返しがつかない結果を招くにもかかわらず、政府や企業は計測不能なほど小さい発生の確率を前提にコスト計算をし、事実上「起きない」ことを想定した中途半端な防災対応に終始していたのが実情である。事実、今回の大震災と巨大津波、そしてそれによる原子力発電所の爆発事故においては、災害の発生を想定して作られていたはずの安全装置や防御システムが全く役に立た

ドイツの社会学者、ウルリヒ・ベッグ (1944-) はチェルノブイリ原発事故の発生を受け、その無差別的な破壊力を目の当たりにし、致命的な環境破壊を増殖させる社会のメカニズムを分析し、現代社会を、富の分配が重要な課題であった産業社会の段階を超えて、危険の分配が重要な課題となった「リスク社会 (邦訳では危険社会)」であると論じた。『危険社会』、東廉他訳、法政大学出版局、1988)



学長の活動 2011年4月~6月

- 4月1日 全学教員会議
役職者辞令交付式
新任教員研修会
- 4月7日 付属柏高等学校入学式出席
- 4月8日 淑徳大学通信教育部との教育提携
- 4月12日 学部長連絡会議
- 4月16日 平成23年度入学式
- 4月26日 全学教員会議
全学入試協議会
- 5月10日 学部長連絡会議
- 5月17日 交換留学生受入式
合同新任教員歓迎会出席
- 5月24日 大学協議会
- 5月26日~27日 全国体育大学協議会
全国体育系大学学長・学部長会議
- 5月30日 日通学園理事会・評議員会
- 6月14日 学部長連絡会議
教員免許状更新講習実施委員会
- 6月20日 千葉県立野田中央高校訪問
千葉県立柏陵高校訪問
- 6月26日 東京聖徳学園理事長学園参列
- 6月27日 東洋大付属牛久高校訪問
茨城県立土浦第三高校訪問
- 6月28日 大学協議会
- 6月30日 茨城県立鹿島高校訪問
茨城県立柏崎柳川高校訪問



日葡友好条約締結150周年を記念して2010年秋、日本郵便が発行した特殊切手
右：バタリーヤ修道院（世界遺産）
左：ポルト歴史地区（世界遺産）

第3回

イツキ飲みの〈悪習〉はいつ始まった？

日本人は西洋人に比べアルコールを分解する肝臓の機能が先天的に劣るそうだ。西洋人にとって「酔う」ことは通常楽しい雰囲気醸成するものでしかないのに、日本語における「酔う」は、「酔っ払い」のように、ネガティブな、つまりむかむかするとか吐き気がするという意味を持つことがある。日本イエズス会の刊行した『日葡辞書』（長崎、一六〇三年刊）を見ると、Yoi（酔）という語彙に *hebetice*（酔っ払うこと・酒盛り）と *enjoamento*（吐き気・むかつき）という説明が附してある。「酔う」が後者のような意味を帯びるについては、前述した日本人の生理的条件が影を落としていた可能性がある。

カトリック信徒は犯した宗教的罪悪を司祭に打ち明けその赦しを乞う義務を負う。これを告解（*confessao*）と呼ぶ。一七世紀前期禁教下の長崎とその周辺で布教活動を行なったイスパニア人ドミニコ会宣教師のデイエゴ・コリヤードは日本人信徒の告解を聴取し、これを『懺悔録』（ローマ、一六三三年刊）にポルトガル語式のラテン文字で筆録した。キリシタンのいわば肉声をオリジナルの日本語からポルトガル語へ訳すうちに次の一節にぶつかる。「大事なる客衆二・三人身が方（我が家）へおぢやつて、二日の間それを抑留致し、少し肴が有つて、酒盛りを行ない、あげくの果て「四人ながら二日酔致しませした」（01）」

カトリックは「モーセの十誡」のほか「七つの大罪」を示してそれらから遠ざかるよう信徒を導く。そのひとつが *gula* すなわち「貪食」（暴饮暴食）なのであるが、上記信徒の振舞いは *gula* の大罪に抵触する（02）。

私の知る限り、ポルトガル語には、「二日酔」とピッタリ重なる概念も独立した名詞も存在しない。前述の如く、西洋人にとって「酔う」から「苦しむ」が連想されることは通常ないから、コリヤードの記



02
ボス「七つの大罪」(ブラド美術館蔵)に描かれた「貪食」。Carl Linfert 解説、*HIERONYMUS BOSCH* 日本語版 (美術出版社)より

01
『コリヤード 懺悔録』(天理大学附属天理図書館蔵)。引用箇所の原文。futuca ioi とあるが一語と見なす。「天理図書館善本叢書 洋書 之部 第1次刊行 語学篇」(雄松堂書店)より

ポルトガル語の「窓」から

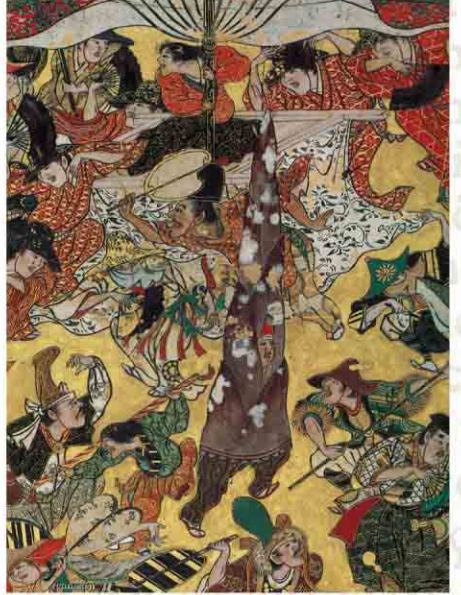
〈4回シリーズ〉

この言語から広がる豊穡の世界へようこそ！
ポルトガル文献学の日笠博司教授が案内します。
日笠博司（流通情報学部教授）
Hino Hiroshi

す *Futuca yoi*（二日酔）を真つ正直に訳すと拙い具合となる。「二日酔」の不快感が伝わってこなくなるのだ。友人の日本研究者ルシオ・デ・ソウザは、私の説明を聴き、それなら俗語とされる *carraspana*（酔酩・グテンゲン）という語彙を使え、そしてその状態が二日継続した、というふうに訳したら *Futuca yoi* の雰囲気は何とか伝わり、と助言してくれた（ムードを正しく伝えるという翻訳の一機能を、機械がヒトの脳に代わって果たすことは本質的に不可能と愚考する、そのゆえには、先述のことにある）。

ひとところ猛威を振るったイツキ飲みの蛮習。これをめぐり気になる記述がある。信長・秀吉時代の日本人を活写したポルトガル人イエズス会宣教師ルイス・フロイスは『日欧文化比較論』（一五八五年に島原半島の加津佐で脱稿）にこんなことを記す。「我らの間ではひとりひとりが欲する以上に飲むことはなく、他人から勧められもしない。日本ではお互いしつこく勧め合うため、ある者は嘔吐し、ある者は酔いつぶれるを余儀なくされる」。桜井英治『室町人の精神』（講談社）によると、当時酒宴での嘔吐は咎められるどころか、やんやの喝采を浴びる最高の座興ですらあった。そう言えば『日欧文化比較論』にこんな記事が見える。「我らの間では酔って正体を失うなど恥辱の極みであり、信用失墜の基だ。日本ではそれを自慢の種とし、こんなやりとりを交わす

——殿は何をしておられる？ 酔うておいでじゃ」



03
『酒飯論繪巻』(16世紀中期。個人蔵)。嘔吐する男。地面の吐瀉物を処理してくれるのはイヌであった。「水墨画と中世絵巻——南北朝・室町の絵画I」(講談社)より



04
『酒飯論繪巻』。酒宴の座興。「水墨画と中世絵巻」より



05
『豊国祭礼図』(17世紀初期。重要文化財。徳川美術館蔵)。「近世風俗図譜 9 祭礼 (二)」(小学館)より



[教育学習支援センター]
陰山雅義
教育学習支援課長補佐



[スポーツ健康科学部]
武井光彦 教授



[法学部]
秋葉侃 教授



[流通情報学部]
片山直登 教授



[社会学部]
山崎寿雄 教授



[経済学部]
村上之伸 教授

井の中の蛙?

流通経済大学付属柏高校入学とともに始めたラグビー。今や全国制覇を狙う強豪チームにまで成長しましたが、当時は千葉県大会で1回戦を突破するのがやっとのチームでした。流通経済大学に進学後も、1年次にはリザーブ選手も揃わないという中で課外活動中心の生活をしていました(念のため、勉学と両立させていたことは申し添えておきます。立場上)。

運動部に所属されていた方には、よくご理解いただけたと思いますが、試合や大会等では「流大さん」と大学名で呼ばれることがほとんどです。つまり、選手たちは、大学を代表して戦っているという感覚です。上述のとおり、それはそれは勝つことより、負けることの方が多かった学生時代。ラグビー以外でも聞き覚えがある大学(一般に言う有名大学)に、「負けるものか!」と大学名を背負って戦い続けてきた四半世紀。

自分の母校に誇りを持つことができ、その母校で勤務・後輩指導に携われる今、とても幸せです。

バスケットボールの発展に尽力

神奈川県横浜市出身。長身でスマートな体型の先生は、東京教育大学体育学部(現・筑波大学)でコーチ学を専攻され、卒業後は、バスケットボールの指導にあたられてきた。バスケットボールの指導にあたる一方、日本バスケットボール協会普及委員や、日本学生バスケットボール連盟強化委員長を歴任されてきた先生は、我が国のバスケットボール競技の強化、発展に尽力されてきた。

スポーツには、ボールを使用して行われる競技が多数あるが、そのボールゲームで使用するボール(丸いものとは限らないが、公認競技の場合は公認球)の収集という趣味も持ちである。

本学での授業はバスケットボール、スポーツ教材研究を担当されているが、日々学生には、いろいろなことに興味を持ち、教官の示す授業内容のもとより日常での行動から、今後に役立つ情報を多く収集し見つけて行く努力をするよう指導にあっている。

一度、先生の収集された様々なボールを拝見しに、研究室を訪れてみては。(田畑 亨・記)

学生、教員とのコミュニケーション

法学部の秋葉侃(つよして、タコではない)です。担当授業は、会社法、企業会計法、法務・行政実習(刑事裁判の傍聴等)を担当しています。本学へは法学部開設よりおりますので、早いもので今年で11年目になります。趣味は音楽鑑賞と旅行です。

この大学に赴任して、まず最初に感じたことは「環境のすばらしさ」と「学生諸君の素直さ」です。緑に囲まれたキャンパス、研究棟から見える、田んぼと遠く見える景色の眺めは最高です。夜は成田に離着陸する飛行機の灯りが見えるのも一興です。そして学生諸君と研究室で、あれこれ議論や(無駄)話をするのも実に楽しいひと時です。ゼミや授業では見れない面が、研究室では素直に出せるのか、オヤツと思うような事が発見できて、再認識するようなときが多々あります。

また、男女を問わずいろいろな学生が、卒業後も、休みの日とか仕事帰りに、食事をしようと夜な夜な誘ってくれます。卒業後の成長を見るのも実に楽しいことです。

ロジスティクスの重要性

大震災の後、道路網の寸断や工場の被災により、物資の輸送が滞り、店では水や食料品が品切れになり、製品の生産にも支障をきたしました。これらはモノを作り、保管し、運ぶというロジスティクスの機能が低下したことが原因であり、ロジスティクスの重要性が改めて認識させられた出来事でした。

私の専門はロジスティクスネットワークの設計です。これは、原料や部品を調達する所を決め、工場や倉庫の場所を決め、さらにそれらの間の輸送方法を決めることです。この問題を速く解く方法を考え、プログラムを作り、パソコンで答えを求めています。今までは費用を安くすることが主な目標でしたが、今回の震災により、想定外の状況であっても最低限の機能が維持できる信頼性や頑健性があるロジスティクスネットワークの設計が重要であることを認識しました。

流通情報学科はロジスティクスを専門的に学べる学科です。今後の震災復興などに役立つように、実践的なロジスティクスの知識を学んでください。

人はいさ 心も知らず故郷は 花ぞ昔の香に匂ひける

私は37年間勤めた一民間企業を定年退職した後、2004年に本学に着任した。慣れない教員生活や初めて住む茨城県での生活にも少しずつ慣れ、7年が過ぎようとしている今では多少楽しむ余裕も生まれつつある。

学生には主に旅行業関連、国家試験、検定試験対策のための科目などを教えているが、企業人だった時の海外滞在17年間(香港、フランス、アメリカ)の苦あり楽ありの実社会体験談が、このほか学生には関心を抱かせているようだ。ちなみにフランスは、子供2人が生まれたこともあり、私の第二の故郷になっている。

我が国では2003年の観光立国宣言に続き、2008年10月に観光庁が発足して、国際観光促進によるソフトパワーの強化と少子高齢化の経済活性化の切り札として、地域の活性化や国民生活の向上を目指して、国を挙げて観光促進に取り組んでいる。卒業生たちの活躍の場がますます広がっている。いつの日か、第二の故郷の花の香りをまた匂ってみたいと願っている。

留学と研究と私

専攻は中国語学。細かく言えば中国語方言学ということになる。特に福建南部方言を中心に研究してきた。この辺りは「文白異読」という現象が豊富に存在することで有名で、最初はそこに研究する楽しさがあった。日本語の漢音と呉音の関係で考えるとわかりやすいかもしれない。例えば「名・命」における「メイ」と「ミョウ」。こういう関係が歴史的にどのように絡み合いながら変化してきたかを考えていた。中国厦門大学に留学して、実際に方言調査をしてみると、今度は語彙を中心にみるようになった。そして方言特有の語彙の歴史を明らかにするために言語地図を用いた研究も始めた。その後、台湾清華大学に留学した時には、指導教授の専門である呉地域までを研究対象とし、呉方言と福建方言の関係について考察したりした。日本に戻ってきてからは留学中に生まれた発想をもとに研究をすすめ、研究領域は海南島にまで広がった。もっと南に行ってみたいが、そろそろ福建南部に戻れという声も聞こえてきた。

東日本大震災と物流、ロジスティクス

東日本大震災において、被災地に物資が届かないなどの様々な問題が発生しました。なぜ、このような事が起こったのか、その背景について述べます。

流通情報学部教授 矢野裕児



●矢野裕児／やの・ゆうじ

1957年東京都生まれ。横浜国立大学卒業。日本大学大学院博士後期課程修了。工学博士。日通総合研究所、富士総合研究所を経て現職。担当科目は「ロジスティクスシステム論」、「ロジスティクス実践講座」等。著書は共著「現代ロジスティクス論」、「現代企業のロジスティクス」中央経済社等。今回の震災における流通、物流関連でテレビ等に出演。

東日本大震災では、物流、ロジスティクスという言葉が盛んに使われました。「なぜ被災地に生活物資が届かなかったのか」、「被災地外でもスーパーの棚からなぜ商品がなくなったのか」、「工場が被害を受けているにもかかわらず自動車などの生産がなぜ止まったのか」、このような疑問に対する重要なキーワードが、物流、ロジスティクスです。物が届く、店の棚に商品が並んでいるということは、平時では当たり前のことです。そのためいつもは、物が届く、商品があ

ることを支えている高度なロジスティクス、情報システムの存在を忘れてはなりません。今回の震災でその重要性を改めて認識することになりました。

＊

まず、「なぜ被災地に生活物資が届かなかったのか」という疑問です。今回の震災は、各地で道路が寸断されました。東北自動車道、国道4号などは早い時期に復旧しましたが、海側の国道45号、そして被災地が広域であったことから、末端の道路の復旧には時間がかかりました。

さらに、津波により港湾の被害も甚大でした。このように、生活物資を運ぶ輸送ルートが寸断されたために、供給が遅れました。

一方、被災地外からは、様々なルートによる物資供給が、懸命な努力により、震災翌日の未明から実施されました。県、市町村の物資集積場所には多くの生活物資が届けられました。しかしながら、地方自治体は、甚大な被害を受け、また物流、ロジスティクスのノウハウがないため、仕分けをし、避難所に配送する作業が滞りました。指定



多様な手段で運ばれる生活物資 (写真提供:日本通運株式会社)

避難所、それ以外の避難所は二〇〇ヶ所にのり、なかなか対応することができませんでした。その後、日本通運をはじめとした民間物流事業者が、物流業務を行うことになって、その問題は少しずつ解消していきま

した。ただ、現状でも、被災者のすべてのニーズに答えられていないというわけではありません。次に、「被災地外でもスーパーの棚からなぜ商品がなくなったのか」という疑問です。ミネラルウォーター、電池、トイレトペーパー、インスタントライ



被災地に運び込まれる生活物資 (写真提供:日本通運株式会社)

メン、納豆、ヨーグルトなど様々な商品が一時なくなりました。これは、需要と供給の関係が崩れ、需要量が供給量を上回ったためですが、小売業は、店舗に在庫をほとんど持っていないため、そのため、卸売業、メーカーには大量の商品があった場合でも、すぐに店の棚から商品がなくなってしまう。ミネラルウォーターは水道水から放射性物質が検出されたこと、電池は計画停電により、需要が急増したために、生産量を増やしても、なかなか対応できませんでした。一方、納豆、ヨーグルトなどは、主要工場の被災、計画停電の影響で、生産量が減少したために、商品がなくなりました。ただ、トイレトペーパーなどは、本当の需要、実需が増えたためではなく、消費者が、店から商品がなくなってしまうのではないかと不安から、買いためをしたためと考えられます。

最後に、「工場が被害を受けていなくても自動車などの生産がなぜ止まったのか」という疑問ですが、サプライチェーン(供給網)が途絶したためです。例

えば、自動車は一台の車を生産するために、二、三万の部品を利用します。その一つでも調達ができないと、生産は止まってしまいます。ミネラルウォーターのペットボトルのキャップ、納豆の容器などの包材(包装材料)などの工場が被災し、生産量が落ちた場合もあります。さらに、マイクロコンピュータ、エチレン、飼料などの工場が被災したことは、広範な産業に影響をも

たらし、サプライチェーンの重要性が改めて認識されることになりました。

＊

今年度の秋学期から、急速「災害ロジスティクス論」を開講することにしました。このような講義は日本で初めての試みですが、災害時の対応の仕方を、物流、ロジスティクスの視点から改めて考えていきたいと思います。



生活物資を買い求める被災者 (写真提供:柳下征史)

途中で投げ出さないこと、
あきらめないこと、
そして決して
欲張らないことです。

OB/OG訪問

立川が聞く。

Tachikawa hears.

社会保険労務士を目指して本学に入学し、現在は茨城県取手市で坂入社会保険労務士事務所の所長をされている坂入浩行さんにお話を伺いました。

坂入浩行 さん

第15期生(1983年3月 経済学部卒業)

Hiroyuki Sakairi

取材 /
立川和美 (社会学部准教授)



坂入さんは現在社会保険労務士として活躍されていますが、本学では経済学部経営学科で学ばれたと伺っております。

私は茨城県取手市の出身で、大学からは車で二五分位の距離の所に実家があったんですね。また祖父が社会保険労務士ということもあり、将来はその跡を継ぎたいと考えておりました。そんな希望もあり、労務管理などを学ぶことができる流通経済大学の経営学科に入学しました。

では、大学では主に労務管理について学ばれたんですね。そうですね。長島先生のゼミで学びました。熱心な学生が集

まったゼミで、大手の生命保険会社などに就職する友人もいましたよ。ですからその中では私はどちらかというと劣等生の部類に入っていたかもしれません(笑)。

それから、高校時代に陸上の三段跳びで関東大会に出場した経験もあり、陸上同好会で汗を流しました。私が在学していたころは六月に体育祭がありました。一年生の時に一〇〇メートル走に出場して三位になったのは良い思い出ですね。大学四年生の十一月に社会保険労務士の資格を取得し、卒業後はすぐに祖父の事務所で働き始めました。

大学入学のときから、社会保険労務士を志されていたというのですが、非常に魅力的なお仕事だと感じられていたのでしょうか。

ええ。この仕事はまず第一に人との関わりが大切なんです。大学生のころから祖父の手伝いを少しずつしており、人事労務の関係で役所のハローワークに行くこともあり、社会との関わりを強く感じる事ができるこの仕事に魅力を感じていました。

その後、二五歳で独立し、仕事に関しては一人で何でもこなすようになりました。二八歳で今の事務所を開いたんです。

卒業されて数年ということ
は、ずいぶん若い時ですね。
何かと御苦労されたことがあつたのではないのでしょうか？

私の仕事のお客様は、会社を経営している方が非常に多いんです。つまり、社長さんたちがお客様という事です。自分よりもずっと年上の方ですから、相手の立場を大切にしながら仕事を進めるように気を使いましたし、知識を増やすために一生懸命に経営関係の本を読みました。同年代の友達に比べて、目上の方との接触が多かった分、早くから金銭の価値などにも敏感だったのではないかと思います。

現在、社会保険労務士の事務所の所長さんとしてお忙しい毎日ですが、どういったお仕事を中心なのですか？

まずは就職関係の問題ですね。求人を出したり、リストラ対策など、私は特定社会保険労務士の資格も持っておりますの

で、職場トラブルや労働紛争なども扱います。それから年金問題も最近特に広く扱っています。また事務所には六名の女性スタッフがおりますが、皆とても勉強熱心なので、彼女たちを育てていくということも私の仕事だと考えています。

では、労働問題の専門家ということになりますか、そうなるに困りごとの解決のための相談を受けることが多いわけですね。

そうですね。私の場合は主に経営者からの依頼を受けてできる限り顧客を優先して問題を解決していきます。ただこの仕事については、法律に詳しいだけではやっていけないのではないかと思います。私は事務所を構える個人事業主ですから、お客様を獲得するための営業活動もしますし、何よりコミュニケーション能力がなくては、納得のいく仕事ができません。これは、どんな仕事においてもいえることかもしれませんね。

それから、私は一見、とてもおっとりしているように見える

ようなのですが、こう見えて実はとてもせっかちで、気になったことはすぐに片付ける性なんです。仕事においても、早め手を着け、スピーディーに進めていくように心がけています。

それでは、流経大生にひとことお願いいたします。

自分の好きなこと、得意なことを見つけ、それを一生懸命やり続けてほしいですね。何か一つでいいですから、そのスペシャリストになってほしいと思います。私自身、学生時代、英語や国語などはあまり得意ではありませんでしたが、社会は大好きでした。目標を立てて、計画を立て、努力し続ければどんなことでも成し遂げられると思います。ともかく途中で投げ出さないこと、あきらめないことです。そして決して欲張らないこと。失敗する人というのは、少し成功すると欲が出てしまい、自分の出来る範囲を大きく超えてしまうことが多いようです。成功した時こそ、気を引き締めて、長く長く続けていくことです。

お仕事を、折り返し誠実なお人柄ですが、その一方、坂入さんは大学時代、歌手の養成学校に通っていたご経験をお持ちで(つくばね祭でもステージに上がり準優勝されたそうです)、実はCDをすでに5枚リリースしているプロの歌手でもいらっしゃるようです。カラオケに行った時には、持ち歌を披露されるとのこと(カラオケにご自身の曲が本名で入っているそうです)。さらに作詞も手掛けており、社労士のお仕事がハードな分、お休みの日は専らこちらのソフトな歌の仕事に熱中しており、「とてもよい気分転換になる」そうです。「歌手や作詞のことについても、いつでも相談に来てくれていいですよ。むしろこっちのほうが多いんじゃないかな(笑)」とおっしゃっていました。



Tachikawa hears.



第5号議案

2011年度収支予算に関する件

自 2011年4月1日 至 2012年3月31日 (金額単位:千円)

項目	予算	備考
前年度からの繰越	24,804	
前年度の回収	1,300	
入会金	7,700	新入生1,530名(うち留学生120名)、編入生20名
会費収入	73,050	
計	80,750	
収入合計(A)	106,854	
通信費	3,500	学報「RKU Today」送料ほか
印刷費	2,200	学報「RKU Today」印刷、総会案内印刷ほか
会議費	200	
事務費	5,000	
父母懇談会費	7,500	会場使用料、案内状・配付資料作成ほか
雑費	300	
小計	18,700	
諸行事後援費	9,500	惜別会、卒業記念品ほか
小計	9,500	
求人開拓費	1,760	求人のための大学案内作成ほか
就職指導費	9,300	業界説明会開催費、指導用学生配布資料作成ほか
小計	11,060	
課外活動補助費	21,500	スポーツ安全協会傷害保険、課外活動備品ほか
大学祭・体育祭補助費	2,000	
クラブ顧問補助費	28,000	クラブ顧問付添費補助ほか
小計	51,500	
環境整備寄付金	2,000	
特別奨学金	4,000	
支出合計(B)	96,760	
翌年度へ繰越(A-B)	10,094	

第6号議案

東日本大震災による被災者への奨学金給付に関する件

流通経済大学後援会では、この災害において被災された学生に対し、次の通り後援会費等の免除及び特別奨学金を給付する。

なお、後援会奨学金(貸与)制度についても積極的に活用し、今回の大震災により学業継続が困難な学生に対応する。

1 後援会入会金及び会費の全額免除

今年度入学した学生のうち被災した方については、大学の学費減免等の認定に基づき、後援会入会金及び会費を全額免除する。(阪神大震災時も適用)

2 特別奨学金の給付

東日本大震災で被災された学生に対し、大学の学費減免等の認定に基づき、10万円または5万円の特別奨学金を一時金として給付する。

- 特別奨学金として、
 - 学費の全額免除と認定された場合 一律 10万円
 - 学費の半額免除と認定された場合 一律 5万円
- を一時金として給付する

以上

第3号議案

2011年度役員選出に関する件

2011年度の役員が決定いたしました。

会長	沼崎 博康
副会長	海老原 雅枝
	神永 健
	大竹 範男
監事	東郷 和之
	野友 省男

以上

第4号議案

2011年度事業計画に関する件

2011年度は、本後援会の目的(会則第3条)及び事業(第5条)にそって、次の1~5に掲げる事業を推進していくものとする。

1 後援会会員(父母)と大学との連携

- (1) 父母懇談会の実施に伴う諸費用の援助

開催都市	実施予定日
博多	東日本大震災の影響により、日程及び開催地について調整中
大阪	
山形	
盛岡	
龍ヶ崎キャンパス	
宇都宮	
新松戸キャンパス	
郡山	
新潟	
米子	
札幌	
中国・大連	

(合計 12会場)

- (2) 学報の発行及び費用援助
大学と父母を結ぶ広報誌「RKU Today」を季刊で発行する。

2 就職活動への援助

- (1) 求人開拓に関する援助
- (2) 就職指導に関する援助

3 課外活動に対する援助

- (1) 文化系、運動系クラブに対する援助
- (2) 課外活動関係設備を充実するための援助
- (3) 課外活動傷害保険料の全額負担
- (4) 大学祭等諸行事への援助

4 その他の援助

- (1) 環境整備への援助
- (2) 卒業生に対する卒業記念品の贈呈、惜別会の開催

5 後援会奨学金

- (1) 特別奨学金の給付
- (2) 後援会奨学金の貸与

以上

第2号議案

2010年度収支決算に関する件

2010年度 収支決算書 自 2010年4月1日 至 2011年3月31日 (金額単位:円)

項目	予算(a)	実績(b)	増減(a-b)	備考
前年度からの繰越	16,263,357	16,263,357	0	
前年度の回収	2,000,000	2,000,000	0	
入会金	7,425,000	7,810,000	△ 385,000	入学者1,550名(うち外国人留学生106名) 加えて2年・3年編入生21名 入会金減免・会費減額者10名
会費収入	74,250,000	74,632,500	△ 382,500	
利息収入	0	49,917	△ 49,917	預金利息
計	81,675,000	82,492,417	△ 817,417	
収入合計(A)	99,938,357	100,755,774	△ 817,417	
通信費	3,700,000	3,042,723	657,277	学報「RKU Today」等郵送料、総会通知
印刷費	2,350,000	1,396,278	953,722	上記印刷費等
会議費	200,000	58,800	141,200	
事務費	5,000,000	4,910,000	90,000	
父母懇談会費	7,500,000	4,646,040	2,853,960	父母懇談会の会場費等
雑費	300,000	238,586	61,414	振込手数料他
小計	19,050,000	14,292,427	4,757,573	
諸行事後援費	13,200,000	2,863,897	10,336,103	卒業記念品代、惜別会費用(中止)
小計	13,200,000	2,863,897	10,336,103	
求人開拓費	760,000	350,000	410,000	就職用大学案内作成費等
就職指導費	8,500,000	13,693,725	△ 5,193,725	就職説明会等補助、就職ガイドブックの作成
小計	9,260,000	14,043,725	△ 4,783,725	
課外活動補助費	17,000,000	7,870,894	9,129,106	クラブへの補助、課外活動備品購入
大学祭・体育祭補助費	2,000,000	1,300,000	700,000	つくばね祭、青春祭への援助
クラブ顧問補助費	25,000,000	32,277,653	△ 7,277,653	遠征、合宿等の旅費等の補助
小計	44,000,000	41,448,547	2,551,453	
環境整備寄付金	2,000,000	2,000,000	0	
前渡金	0	1,300,000	△ 1,300,000	
税金	0	2,262	△ 2,262	
基金積増	0	0	0	
支出合計(B)	87,510,000	75,950,858	11,559,142	
翌年度へ繰越(A-B)	12,428,357	24,804,916	△ 12,376,559	

財産目録 (2011年3月31日現在) (金額単位:円)

項目	金額	摘要
(一般資金)		
現金	370,516	手許残高
預金(常陽銀行 龍崎支店)	24,434,400	期末残高
小計	24,804,916	
(育英資金)		
定期預金(茨城県信用組合佐貫支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行龍崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行龍崎支店)	15,000,000	育英基金
定期預金(常陽銀行龍崎支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(千葉銀行柏支店)	10,000,000	育英基金
定期預金(千葉銀行柏支店)	15,000,000	育英基金
定期預金(千葉銀行柏支店)	5,000,000	育英基金果実
普通預金(茨城県信用組合佐貫支店)	3,466,043	育英基金果実
育英基金貸付金	1,885,000	6名
小計	80,351,043	
合計	105,155,959	
負債の部	0	
差引正味財産	105,155,959	

監査報告書

流通経済大学後援会会則第10条第3項の規定により、2010年度流通経済大学後援会収支決算について諸帳簿を監査した結果、その内容についてはいずれも正当なものと認め、第13条の規定により報告いたします。

2011年4月8日

監事:神永健 監事:大竹範男

第1号議案

2010年度事業報告に関する件

2010年度 事業報告

2010年4月1日開催の後援会総会において、ご承認いただいた事業計画にもとづいて、次のとおり2010年度の事業を実施した。

1 後援会会員(父母)と大学との連携

- (1) 父母懇談会の開催状況

開催都市	実施日	父母出席者数
龍ヶ崎キャンパス	6月26日(土)	283名
新松戸キャンパス	7月3日(土)	319名
高崎	7月4日(日)	16名
青森	7月9日(金)	4名
秋田	7月10日(土)	19名
仙台	7月11日(日)	52名
甲府	7月17日(土)	6名
静岡	7月18日(日)	12名
熊本	7月24日(土)	17名
広島	7月25日(日)	5名
中国・大連	6月20日(日)	20名
11会場		753名

- (2) 学報の発行及び費用援助

大学と父母を結ぶ広報誌「RKU Today」を4回発行した。

2 就職活動への援助

後援会発足以来の重点施策の一つである大学の求人開拓や就職指導に関して全面的に協力し、併せて費用の一部を負担した。就職がますます厳しい状況であることから、円滑な就職活動ができるよう新たにガイドブックを作成した。

3 課外活動に対する援助

- (1) 文化系、運動系クラブに対する援助
大学の課外活動振興が円滑に推進できるよう、文化系、運動系クラブに備品を購入する等の援助をした。
- (2) 課外活動関係設備を充実するため援助した。
- (3) 課外活動傷害保険料を全額負担した。
- (4) 諸行事への援助
大学恒例の大学祭である龍ヶ崎キャンパス「つくばね祭」、新松戸キャンパス「青春祭」等の行事に対して援助金を交付した。

4 その他の援助

- (1) 環境整備への援助
- (2) 卒業生に対する卒業記念品の贈呈

以上

RKU Schedule 2011年7月～ 2011年10月

全学

- [7月23日]
・春学期授業終了
- [7月25日～8月5日]
・春学期定期試験
- [8月6日～9月30日]
・夏季休業
- [10月1日]
・秋学期授業開始／秋学期入学式
- [10月8日]
・春学期卒業式(新松戸キャンパス)

就職関連

- [10月]
・第5回就職ガイダンス
(履歴書・エント リーシート対策)
- ・4年生内定者による
就職活動体験発表会
- ・留学生就職ガイダンス

2011年度父母懇談会のお知らせ

2011年度父母懇談会を下記の日程で開催いたします。詳細は学生生活課父母懇談会係(TEL:0297-60-1157)までお問い合わせください。

- 10月15日(土) 新松戸キャンパス
 - 11月5日(土) 大阪
 - 11月6日(日) 博多
 - 11月12日(土) 山形
 - 11月13日(日) 盛岡
 - 11月19日(土) 龍ヶ崎キャンパス
 - 11月26日(土) 新潟
- 合計7会場

【編集後記】

●3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災による未曾有の災害の復旧・復興に向けて着実な動きが各被災地から始まっています。辛い気持ちを心の中にしまい込み、毎日を送られている方々に一日も早く安らぎのある生活が出来るようになることを切に望む次第です。

暑い季節に入り、復旧・復興に向けてのお仕事は大変だと思いますが、お怪我や熱中症等に気をつけてお過ごしいただきたいと思っております。

●大震災による諸々の影響を受け入学式を4月1日から4月16日に繰り下げ、それに連動して授業開始日も繰り下げて春学期の授業がスタートしましたが、早いものであつという間に3ヶ月が過ぎ春学期定期試験(7月25日から8月5日まで)の時期になってまいりました。学生の皆さんには、日頃の努力の成果を発揮することを大いに期待したいと思います。(編集子)

02 ●● 入学式

4月16日、龍ヶ崎キャンパスのメインアリーナにて2011年度入学式が挙行されました。今年度の入学者数は、学部1,550人、大学院48人です。

式終了後、新入生たちは在学生からの歓迎やサークルへの勧誘などを受け、大学生活のスタートを切りました。



03 ●●●

交換留学生受入式

5月17日、本学の協定校である中国の東北財経大学、海南大学および韓国の又松大学からの交換留学生の受入式が行われました。

交換留学期間は今年度の1年間。龍ヶ崎キャンパスにおいて、ゼミ、専門科目を中心に履修予定です。



04 ●●●●

海浜実習

沖縄県渡嘉敷島にて、スポーツ健康科学部の海浜実習が6月28日から7月4日に実施されました。

1年生全員が2班に別れ、学部の掲げる「生命の尊厳」「人間力」について改めて学び考えます。無事、帰宅した学生たちの顔からは、実習がとても充実したものであったことが感じられます。



01 ● RKU WEEK

RKU WEEKは、入学式直後約1週間をかけて高校教育(生活)から、大学教育(生活)への円滑な移行ができるようにすることや、勉学意欲を高め仲間作りの場を提供すること、さらには本学への帰属意識を高めること等を目的に、学長を実施本部長として教員・SA(先輩学生)・事務職員が全学をあげて実施しています。今年度は、入学式が4月16日(土)に挙行されたため4月18日(月)から25日(土)まで実施されました。

現在は、WEEK(週)からSEMESTER(学期)へと継続したプログラムへの検討を進めております。



NEWS & TOPICS

新任 教職員紹介

2011年4月から
新たに本学に着任した
教員、職員を紹介します。



経済学部教授
さわむら よしろう
澤村 淑郎
担当科目: 事業創造論
最終学歴: 慶応義塾大学工学部
管理工学科卒業
取得学位: 学士(工学)



社会学部准教授
こうだ まりこ
幸田 麻里子
担当科目: 観光心理学
最終学歴: 立教大学大学院観光学研究科博士
課程後期課程単位取得満期退学
取得学位: 博士(観光学)



流通情報学部講師
さいとう たかはる
齊藤 隆春
担当科目: 英語
最終学歴: アリゾナ大学大学院博士課程修了
取得学位: Ph. D
(Language, Reading, and Culture)



流通情報学部講師
よこい のりえ
横井 のり枝
担当科目: 国際マーケティング論
最終学歴: 早稲田大学社会学部卒業
取得学位: 学士(社会科学)



教育学習支援センター専任所員
とみた みちえ
富田 美智江
担当科目: 教養諸学入門
最終学歴: 慶応義塾大学大学院文学研究
科史学専攻東洋史分野
博士課程単位取得退学
取得学位: 史学修士



教育学習支援センター専任所員
ばば ひろし
馬場 裕
担当科目: 教養諸学入門
最終学歴: 筑波大学修士課程教育研究科
スクールリーダーシップ開発専攻修了
取得学位: 教育学修士



教育学習支援センター専任所員
まつむら しほ
松村 史穂
担当科目: 教養諸学入門
最終学歴: 東京大学大学院人文社会系
研究科アジア文化研究専攻
博士課程単位取得退学
取得学位: 文学修士

オープンキャンパス開催中

Welcome to Ryutsu Keizai University OPEN CAMPUS!

開催日によって各学部・学科のスペシャルイベントが企画されています。

※他にもRKUを知っていただくためのさまざまなメニューをご用意していますので、他の学部・学科志望の方もお待ちしております。

新松戸キャンパス

千葉県松戸市新松戸3-2-1

7月	23日	± [流通情報学科]
8月	6日	± [経済学科]
	20日	± [自治行政学科]
9月	10日	±
10月	1日	±

龍ヶ崎キャンパス

茨城県龍ヶ崎市平畑 120

7月	30日	± [ビジネス法学科]
8月	7日	日 [社会学科]
	27日	± [流通情報学科]
9月	17日	±
10月	8日	±
	29日	± ★学園祭と同時開催!

〈開催時間〉 10:30 ~ 15:00

〈主なメニュー〉 ● 学部学科発見コーナー ● 模擬授業／体験実習 ● 学食体験
● 先輩とのフリートーク ● キャンパスツアー ● 保護者説明会 など
※事前のお申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。

入試相談会 も両キャンパスで開催中

〈平日〉9:00~17:00 〈土曜日〉10:00~14:00

オープンキャンパス開催日は 10:30 ~ 15:00

※開催日はホームページでご確認ください。

RKU Guide Book 2012

〈大学案内〉

入試センターまでお電話かメールにてご請求ください。
また大学のホームページからお申し込み
いただくこともできます。(送料共無料)



AO入試ガイドが
できました。

ご希望の方は入試センターまで
お問い合わせください。



流通経済大学入試センター

オープンキャンパス、入試相談会のお問い合わせ、大学案内などの資料請求はこちらまで。

☎ 0120-297-141



✉ ees@rku.ac.jp
🌐 <http://www.rku.ac.jp/go>
📞 <http://www.rku.ac.jp/go/m>



RKU

流通経済大学広報誌 RKU Today vol.16 2011年7月発行

編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL: 0297-64-0001 (代表)

